

テキストスタイルの書式設定コード

ご存知でしたか? ... スタイルの書式設定コードを使って、テキスト (データタイプやグラフタイプのテキストも含む) を書式設定できます。

TNT 製品において、どの言語でどこにテキストを生成する場合でも、様々なテキスト書式設定コードを使ってフォント、サイズ、タブ、その他多くのテキスト特性を指定できます。テキストを WYSIWYG モードで入力する場合、これらのコードは自動的に挿入されます。ただし、スクリプト (コントロールや仮想フィールド) や、データタイプ・グラフタイプ用の前付け文字ではユーザが指定する必要があります。

コード	説明
データタイプ	
{~BG}	データタイプの背景色
整列	
{~L}	テキストの左揃え
{~R}	テキストの右揃え
{~C}	テキストの中央揃え
{~F}	テキストの両端揃え (右と左のマージンを均等にする)
スタイル (太字、斜体 (イタリック)...) と位置	
{~B}, {~/B}	太字、オフにする
{~BWx}	× (テキストサイズの %) の幅で太字にする
{~I}, {~/I}	デフォルトのせん断角 (16 度) で斜体 (イタリック) にする、オフにする
{~IAX}	指定のせん断角 × (度) で斜体 (イタリック) にする
{~U}, {~/U}	アンダーライン (下線) を引く、オフにする
{~O}, {~/O}	アウトライン (輪郭) を示す、オフにする
{~E}, {~/E}	強調する、オフにする
{~EWx}	テキストサイズの × (%) の太さで強調する
{~SH}, {~/SH}	陰影をつける、オフにする
{~N}	太字、斜体 (イタリック)、アンダーライン、アウトライン、強調、陰影、上付き文字、下付き文字をオフにする
{~BX}, {~/BX}	囲む、オフにする
{~S+}	上付き文字
{~S-}	下付き文字
{~SO}	上付き文字と下付き文字をオフにする。その他のスタイル設定は維持する。
{~AN}	後で重ね刷りするために、テキストのアンカー位置を設定する
{~OS}	このコマンドに続くテキストが、以前からあるテキストに重ね刷りされます。{~AN} により最後に設定されたアンカーから始まります。
カーニング (Kerning) と平滑化 (Smoothing)	
{~SM}, {~/SM}	平滑化する、オフにする
{~K}, {~/K}	カーニングする、オフにする
方向	
{~GLRx}	角度を指定してグリフを回転する
{~IG}, {~/IG}	グリフの垂直方向の反転、標準のテキスト方向に戻す
サイズ、カラー、フォント、タブ	
{~TSx}	テキストサイズを × ポイントに設定
{~LSx}	行間隔を × ポイントに設定
{~Cr,g,b}	カラーを RGB 値で設定 (0 ~ 100)
{~C[BG]r,b,g}	テキストの背景カラーを設定する (0 ~ 100 の値)
{~Fname}	フォントを "名前" フォントに設定する
{~TABS xj}	タブを設定します。文字位置 x の所にタブ位置を置きます。j (オプション) は、タブの行揃えのタイプを示します (L、R、C; L がデフォルト)。l (オプション) は、タブ位置の前の引き出し線のタイプを示します。(デフォルトでは引き出し線はありません。このオプションは "、"、" または "_" です。)

さらに知りたいことがあれば...

オンラインリファレンスマニュアルの
表示 (Display) の章をご覧ください

